

三田の2025年度短期留学生にインタビュー！

2025年1月～6月の期間、短期留学生として三田高校に通学した柴田さんは、現在アメリカのハーバード大学で1年生を終えたところです。3月に現地で再会することができたので、学校生活について話を聞いてみました。



Q：ハーバード大学を選んだのはなぜですか。

A：2日間にわたって開催されたオープンキャンパスに参加したことがきっかけです。大学の教授や在学生と話をしましたが、彼らの人柄や個性に惹かれました。ハーバード大学ということで、自分も気おくれしているところがありましたが、普通の人たちであり、また自分たちの意見をそれぞれが持っていて、他大学と比較してもとても話しやすいと感じました。

Q：現在の専攻は何ですか。

A：Premedical Trackと言われる医療分野に携わりたいことを希望する学生のためのコースです。

Q：現在どんな学校生活を送っているのですか。

A：授業期間はもちろん日々の学習に忙しく取り組んでいます。医療関連の授業はテストも多く、学習時間の確保が必要ですし、また論文の提出が求められる講座もあります。

ハーバードの学生は全員寮住まいです。大学のキャンパス内に多くの寮が点在していますが、現在は1年生に割り振られている寮に住んでいます。食事は1年生全員が同じ食堂を使っています。寮にはCommon Roomと呼ばれる共有スペースがあり、たくさんの人と出会える場となっています。また食堂や図書館で出会った人と友達になることもあります。様々な背景を持った人との出会いは、自分にとって大きな意味があります。

ハーバードには多くのクラブ活動があり、コンサル部、ファイナンス部等ビジネスに直結したクラブも見られ、授業よりクラブ活動に励んでいる学生もいます。私はHarvard Undergraduate in Asia Programという活動に参加しています。アジアを中心とした他大学の学生との交流を通して文化的な違いや多様性について考えます。3月には韓国へ行き、現地の大学で開催された交流会に参加しました。

Q：大学入試について、参考までに教えてください。

A：こちらでの入試はすべてがAO入試のようなものです。SATと言われる学力テストの評価も大切ですが、自分が高校時代にどのような活動してきたかが重要となります。自分の場合は、小児緊急対応をしている病院で夜間診療受け入れの補助をするボランティアを経験しました。また、サイパン出身の祖父の影響もあり、医療的格差に関心があったので、サイパンにおける医療状況について実際に地元の方にインタビューをすることも含めて調査を実施し、それを高校生のオンライン会議の場で発表しました。医療が発展しない地域があり、実際に病気で亡くなる人が多いという医療の地域格差については、今後も関わりを持っていきたいと考えています。

大学が探しているのは、将来社会に貢献する人だと考えます。大学のresource（資源、資産）を使って自分の夢を実現できる学生を求めているのではないのでしょうか。

インタビューを終えて

柴田さんにはハーバード大学を案内してもらいました。リスが時折顔をのぞかせる緑豊かで広々としたキャンパスには、学生だけでなく多くの人が行きかい、街全体から大学を中心とした活発なエネルギーが湧き出ていました。また、柴田さんからは、高校時代に既に自分のやりたいことがはっきりとしており、目標に向けて自分なりに計画を立て実行してきた力強い意志を感じました。

三田高校 ポストン・アカデミック・ツアーについて

2025年度のポストン・アカデミック・ツアーは、2026年3月25日から2026年4月5日までの実施でしたが、参加者はこの期間に2度ハーバード大学を訪問しています。ハーバード大学幹細胞研究所 研究員による特別講義を受講し、研究室を案内してもらったり、専用のダイニングで夕食をとりハーバードの学生気分を味わったり、とても貴重な経験をしました。その際、今回インタビューに応じてくれた柴田さんをはじめ、ハーバードの学生がキャンパスを案内してくれたので、現地の学生しか入れない施設に足を踏み入れることもできました。また、マサチューセッツ工科大学（通称 MIT）の学生との交流機会もプログラムに含まれており、参加者は現地大学生との交流を通して、今後の進路実現に向け、志を新たにしたいと確信しています。

聞き手：英語科 榎野 千織